森の名手・名人シリーズ No.24

名人　今井　久喜（54）　岐阜県加茂郡東白川村
聞き手　西尾　年弘　私立名古屋高等学校3年
平成15年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、38名の「森の名手・名人」がいます。
この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

蜂の子取り
向上を続けるヘボ獲り

1．ヘボ

『クロスズメバチ』と『シダクロスズメバチ』を総称して『ヘボ』。頭盾（とうかん）に白いU字の模様が見られるのが『クロスズメバチ』で、白い模様の下端が離れているのが『シダクロスズメバチ』。この付近は、『シダクロスズメバチ』が多い。『クロスズメバチ』はどちらかと言うと、山岳地帯じゃなくて平地に多い。

蜂の雌雄を見分けるのは簡単。雌は触角が短くておなかの白いストライプが5つで、触角が長くておなかの白いストライプが6つなのが雄蜂。雄蜂は針を持ってないから握っても大丈夫。

雄蜂は女王蜂と交尾するだけのために生れてくる。寿命は大体2週間。10月に雄蜂が生れてきたあとに、普通の規模の巣だと4、500羽ぐらいの女王蜂が生れる。それで11月の中ごろぐらいから、付近にある木の一番高い樹冠で交尾する。交尾が終わると女王はすぐに冬眠にはいる。女王だけは1年間生きる。

女王は冬眠がさめると、自分の巣を造る為に巣穴を探し始める。どこがいいか選択に1週間から1ケ月ぐらいかかっちゃう。ところが厳しいことに女王蜂の中で、巣が架けられるのが約5%だけ。架けたとしても、その年の秋までに女王蜂を産出するまでに巣を大きくすることができなかったりする。最初の穴は、ネズミとかモグラとか野生動物の掘った穴を利用する。そこから1㎝から2㎝のところに木の根があるのが条件で、そこに『ツリテ』をぶら下げる。三角盤って言って、三角がねじれたふうになってる。これは力学的にもとても優れていて吊り下げることに対してものすごく強い構造なんだ。これを木の根に吊り下げてから巣を造っていく。最初は女王が1羽で、働き蜂が誕生した頃は女王も一緒に働く。

いよいよ働き蜂が10羽から20羽ぐらいになると、女王は巣の中に閉じこもって子供を産んで世話するっていう仕事に没頭する。そのあと働き蜂が増えて世話をしてくれるようになると女王は卵産むだけの機械になっちゃう。働き蜂の寿命は、20～30日。雌だけど精子をもらってない働き蜂が産む卵は、全部雄で働く事を知らないから、巣が駄目になってしまう。それでその間中働き蜂が卵を産まないように体から出る産卵抑制ホルモンを出しつづける。女王は働き蜂にそれをなめさせるのだから、女王蜂はつやつやしてすごくきれいな体をしてる。

4月に5㎝ぐらいだった巣が5月6月になると5～15㎝ぐらいの大きさになって、大体働き蜂が25羽ぐらいになる。そうなると今まで以上にえさが必要になってくる。最初は20～50m四方の範囲ぐらいで餌を探してきたのが、100～500mとか遠くに探しに出る。これが8月9月まで続く。この時期に、巣は急激に大きくなっていく。10月に入ってくると雄蜂の巣盤ができて、その後に女王蜂の巣盤ができる。巣盤の六角形の子供が育つ『育房』はとても正確にできていて、どうも触角で寸法を測ってるって言われてるんだけど、この構造が力学的にもとても優れているんだ。最小限の材料でもって最大限の力を発揮する、ハニカム構造っていうんだけど、これは飛行機のドアの内側とか新幹線にも使われている。ヘボはこういうことができるとっても『賢い昆虫』なの。

ヘボの産卵のメカニズムはとても複雑。雄蜂は無精卵から生まれる。受精して産まれたのが働き蜂、雄の後に受精して生まれてくるのが女王蜂で、産み分けがされてる。女王が受精させる精子は、1年前に交尾したときその精子を受精嚢にいっぱい蓄えておいて産みつけてるわけ。

蜂の体って、胸とお腹のくっつく部分がほんの少しでしょ？　だから固形物が入っていかない。ところが、幼虫は入る。それで、まず幼虫に餌をやる。そうすると、幼虫がとても栄養分の高い液を出す。人間で言う母乳に近い成分を持ってて、それを飲んで働き蜂は働いてるわけ。

▲餌を取りに来た蜂に目印を持たせるところ
▲働き蜂が25羽ぐらいのときの巣の様子
▲取った巣を箱に入れ持ち帰る
▲ヘボの交尾

2．飼うヘボ獲りへ

ヘボの飼育は6月頃に10～15㎝ぐらいの巣を獲ってきて飼育箱に入れるの。それを家で飼う。それを大きくして11月に取り出すと巣盤ができてて、それから幼虫を取り出して食べる。市場では巣の値段が1㎏1万ぐらい、4㎏もあるいい巣だと、1つの巣で4～5万しちゃうんだ。だから、むやみに乱獲されると困ってしまうんで、昔みたいに何にも考えずに獲るのをやめて適度に獲って適度に逃すことを始めたの。ヘボの飼育は明治かそれ以前から始まってて、ここにきて急激なブームになってる。保護するのは最近になってからだね。

〈ヘボを探す〉

まずは蜂をおびき寄せることから始まる。生臭いから川魚が一番いいんだけど、それを竹に刺して、いっぱい置いておく。そうするとその臭いにつられてヘボがくる。上手に餌を付けた目印を持たせて、それを追いかけて見つけるとそれを地面から取り出す。それが目印でもってやる『蜂追い』ってやつだ。

もう一つの方は『スカシ』って言うね。蜂は黒いでしょ？　空はかなり明るい色だよね？　その対比でもって飛ぶ蜂を見上げながら追いかけていくわけ。巣から出て餌を持ってない蜂は、ジグザグの飛び方をする。フェイントをかけて飛んでるわけだ。鳥がついばみにきても食べられないようにしてるんだ。でも餌を持ってこの動作をやろうと思ったら、大変な重労働。だから真っ直ぐ飛ぶ。だから真っ直ぐ飛ぶ蜂は、巣に向かってる蜂なの。まず、蜂が餌のあるところから飛んでいって帰ってくるまでの時間を計る。2分だったら200mぐらいだろうって、自分の経験でだいたいの距離をはかる。それでこの飛んでいく蜂を追っかける。あっちに行ったなと思ったら、行った先で上（空）を見てる。そうするとまた餌もって飛んでくる。また飛んでいったら、もうちょっと上に行って見上げると、だんだん巣に近づいていくから蜂がたくさんになってくるわけ。また少し上に登って見てるの。今度は逆に巣から出てきてフワフワやってる蜂や巣を大きくするために掘った土を持って出てくる蜂もいるわけ。その土を持った蜂がいたら、もう巣に近いんだ。暗いところをバックにして見ると、蜂が明るいところを飛ぶのが良く見える。それが「シューシュー」って落ち込んだり、「パーパー」と上るのが見つかったら、そこが巣なの。これが『スカシ』っていう技術。

『蜂追い』は簡単だけど、見失ったらいちいち見失った所まで行ってまた飛ばしてもらったり、見失ったところまで行って待ってるから、時間がかかるよね。1つ見つけるのに1時間かかるかもしれない。『スカシ』はとても技術がいるんだけど、秋の空気のすんだ状態でやって行くから、巣がたくさんあるときだったら1日に10個とか20個見つけちゃうわけ。こんな技術者が何人もいたらこの蜂の資源は枯渇してしまう。そこで考えたのが、取って食べる一方で逃がしていく方法。うちでは4つの巣をヘボハウスを造ってそこで女王を出させて、部屋の中で交尾をさせて来年の春まで大事に保管しておいて逃がしてあげるの。

▲冬眠をさせた女王を逃がす様子

▲屋根が網状の『T・H式』

▲蜂に刺されないための防具服

▲ヘボコンテスト優勝の盾を持つ名人

〈ヘボを飼う〉

ここで飼育している巣箱は、理論は湿気を逃がすことに重点を置いてる。巣の中の温度って30度ぐらいで湿度80%以上。こういう状態だとカビが発生しちゃうわけ。それを防ぐのが外皮の抗菌剤なんだけど、それでも危険性は十分ある。だから屋根の部分にネットを張ってそこに軽い土をのせて水分を蒸発させるの。

ヘボの餌は川魚と鶏の肝やザリガニ。あとは糖分をほしがるからブドウ糖などの蔗糖。朝早くあげる事が一番大事。巣の中の温度が31度過ぎると極端に活動しなくなるから、朝の涼しい時間帯にたくさん餌をあげないとだめなの。ヘボは気温が25度ぐらいからだんだん活動しなくなる。6月の終わりから7月だと4時ぐらいに起きて餌を出してあげる。だいたいこの時期のヘボは4時半から8時半ぐらいまでが活動時間なの。気温が高い時期に生餌は昼ぐらいにはもう腐り始めちゃう。特に砂糖水はウイルスが増殖しないように捨て器はきれいに洗ってあげて、夕方の通いに合わせてまた3時ぐらいから新しい餌をあげる。1日1回の人もいるけどあまり巣が大きくならないね。

3．ヘボをみんなで楽しむために

おじさんには相棒がいて、だいたい1年間に120～130の巣を見つけるの。その中でおじさんと相棒が30巣ぐらい飼って、どうしても飼いたいけど山に行けないっていう人におおよそ20巣ぐらい差し上げる。あとは山に残しておくと秋にヘボを獲る専門の人が行って楽しむの。それでもまだ自然に巣が残るとそこから女王が出て行くわけだ。

ヘボ取りをやってるうちにすごく面白いことが分かってきたの。心が健康になるの。ヘボが巣から出入りするのを見てると、心が癒されるの。朝は白々っとする前にもう働きに出てくの。「ブンブン」やってるの。それで椅子持っていって座って見てると、その様子がものすごく勇壮なの。もうね活気付いてくるのね。1時間でも2時間でも見てられるの。そこからぽっと出て仕事に向かうときは、すがすがしい感じで向かっていける。癒しの効果があって、そして最後に食べられてお金にしようと思えばできる。ヘボってこんないいものなの。

名人　今井久喜（いまいひさき）さんのプロフィール
●生年月日：昭和24年3月26日生まれ
●出身地：東白川村
●職　業：製材建築請負業
製材・建築請負業を経営されながら東白川タカブ研究会の会長を務めています。林業や蜂の子取りの発展を目指し、日々研究を行い、林業・蜂の子取りの向上に取り組んでいます。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　佐藤正吉】